HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー
Author(s)	成田，真由美；川本，思心
Citation	CoSTEP研修科 年次報告書，6(5)，1-9
Issue Date	2022-05-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/86429
Type	report
File Information	NeXTEPreport_2022-5-10_narita.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー

成田　真由美（3 年目）

2022 年 5 月 10 日

担当教員：川本思心

概要

本報告書は、大量に発掘収集されたアイヌ遺骨を取り巻く諸問題を、関係者インタビューという形で視てきた調査 3 年目のまとめの報告となる。CoSTEP 研修科最後の年となる今年度は、北海道アイヌ協会元事務局長の竹内渉氏へのインタビューを行った。そして、常本照樹氏、木村二三夫氏へのインタビュー・レポートと合わせて、順次 HUSCAP にて公開した。

3 名のインタビューを通して自分の中に起こった変化をオートエスノグラフィーの手法を参考にして、ルポルタージュとしてまとめる JJSC への投稿原稿は、方向性を示す程度の第 1 稿を担当教員へ提出したが、更なる熟考が必要と自己判断し、担当教員と相談のうえ研修科終了後に引き続き行うこととした。

目的と背景

研究者によって発掘・収集された先住民族であるアイヌの方々のご遺骨は、全国の大学や博物館などに保管されていた。返還がなされず大学で保管していたご遺骨は、民族共生象徴空間（ウポポイ）に併設された慰霊施設に集約されている [1]。

一方、2018 年の北海道命名 150 年記念事業（北海道 150 年事業実行委員会 2019）ではアイヌ文化にも脚光が当てられ、2019 年「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）」が施行（日本国 2019）された。2020 年にはウポポイが開業し、東京オリンピック 2020 など様々な場所、機会にアイヌの伝統的な歌や踊りや儀式が披露され、アイヌ文様を付した商品なども多数販売されている。アイヌ文化の独自性や素晴らしさだけが取り沙汰されているようで、片手落ち感が否めなかった。お祭り騒ぎのような情勢であるからこそ、過去に「アイヌ民族」に何が起こったのか、正確には私たち「和人」がアイヌの方々に何をしたのかを知り、そこから「共生の未来」を考えることが必要なのだと思った。

実施概要

今年度は、北大イチャルパへの参加（12 章）、関係者インタビューの実施（13 章）、中間報告会での発表（14 章）、インタビュー・レポートの公開（15 章）を行った。また 16 章では資料として、北海道大学に収集された遺骨が慰霊施設に集約されるまでの経緯とお返しできたご遺骨を可能な限りまとめた [2]。

---

[1] 「慰霊施設において管理するアイヌ遺骨等の情報」によると、1878 年に現在の小樽市手宮から発掘もしくは発見され北海道大学が保管していた遺骨が、記録上最初に大学に収集された遺骨である（国土交通省北海道局 2022, 27）。

[2] 章番号は 2019 年度（成田他 2020）、2020 年度の報告書（成田他 2021）からの連番とした。また、12 章から 15 章は自分の経験と所感を強調するために敬体で、16 章は資料として常体で書いた。

12.　2021 年 7 月 30 日　「北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ」参加

今年もコロナ禍での開催となり、全道から集まることを避けたようでした。浦河アイヌ協会と札幌アイヌ協会と中心となってイチャルパが行われたようです。儀式の途中では、年長者が作法を口伝している様子も見られ、伝統文化の継承の場ともなっているようでした。

この日のアイヌ納骨堂には、各地に返還予定の 100 体と 53 箱が納骨堂に納められていたそうです。（北海道新聞 2022）

2021 年 7 月 30 日　北海道大学イチャルパのために設置されたヌササン（祭壇）

13.　2021 年 10 月 20 日　関係者インタビュー③＜北海道アイヌ協会　元事務局長　竹内渉氏＞

「アイヌ遺骨問題」の重要な Key words に尊厳や誇りがあります。アイヌ民族の一部の方々による、尊厳をとり戻すかのような 1970 年代の「アイヌ民族運動」（竹内 2020）に非アイヌでありながら関わり続け、アイヌ内部から社会の変化を視てきた竹内氏に、その転換期から現在アイヌの方が置かれている現状などをお伺いしました。

14.　2021 年 11 月 6 日　研修科 2021 中間報告会　オンライン開催

研修科有志で企画・運営する中間報告会は、CoSTEP 関係者限定としてオンラインで開催しました。前年度の反省も踏まえ発表時間などを相談し、発表時間はひとり 30 分とし、その中で質疑応答を必ず入れることにしました。11 月 6 日、13 日、27 日の 3 日間、1 日 3 名の発表としました。中間報告会は、自分の調査研究の途中経過をまとめて発表するという区切りにもなります。研修科は、それぞれの担当教員と個別に調査研究を進めるため、横のつながりに乏しく、参加者との質疑応答も大変参考になると私は考えています。今年はグーグルのアンケートフォームを活用した意見収集も行いました。私が発表した 11 月 6 日は 18 名の方にご参加いただけました。

私は 3 名のインタビュー調査が終了したことを報告しました。インタビュアーの最終確認が取れていないため詳細には触れず、年次報告書で公開した内容や事前調査を中心とした報告を行いました。毎年私が頭を悩ませることは、「アイヌ遺骨問題」の説明です。CoSTEP 受講生、修了生には道外の方もいるので、「アイヌ民族」や「アイヌ民族と和人（入植者）の関係」についての説明が必要になり

ます。昨年に引き続き今年も、発表の半分以上の時間を調査が行われる現状を説明するために使いました。私が調査を継続し報告することも、「アイヌ遺骨問題」を伝えることに繋がっているのかもしれないとも思い至りました。

中間報告会で使用した報告資料とスクリーンショットからの切り抜き

15.　2022 年 3 月～4 月　関係者インタビュー・レポート　HUSCAP 公開

インタビュー・レポートには、「アイヌ遺骨問題」に初めて触れる方にも、前後の事情が分かるように様々な情報を盛り込むことにしました。また、自分の言葉でかみ砕いた説明ができないと思われる言葉にも脚注を入れました。その結果として脚注を多く入れることになりましたが、発話されたことの背景には様々な事実や発話内容を理解するために必要な基礎的な情報があるということを改めて認識しました。

15-1. 常本照樹氏インタビュー・レポート（成田・川本 2022a）

アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会やアイヌ政策推進会議に参加している憲法学者である常本氏から、国や有識者が「アイヌ遺骨問題」をどのように捉えているのか、そしてそれらがどのように政策に反映されているのか、などを伺いました。海外の現状と先住民族政策についてもわかりやすくご教示いただきました。「アイヌ遺骨問題」の現状を俯瞰的に捉えるために、常本氏へのインタビューを最初に行いました。

私は本調査を開始する前から、北海道大学アイヌ・先住民研究センターが主催した 2015 年度～2017 年度の連続講座「アイヌを学ぶ」やそれ以降のアイヌや先住民関係の講演会、NPO 主催の講演会などにも参加していました。常本氏の講演会は、NPO 主催の 2016 年 7 月 3 日「個人の尊重とアイヌ政策」を拝聴したこともありました。その時同様今回のインタビューも、常本氏の丁寧に説明を尽くそうという真摯な姿勢に共感しました。

15-2. 木村二三夫氏インタビュー・レポート（成田・川本 2022b）

アイヌ遺骨の返還請求当事者であり、強制移住させられたアイヌの子孫である木村氏から、その胸の内をお話しいただきました。インタビュー調査を開始した頃は HUSCAP でもほとんど確認できなかった当事者の声を、できるだけリアルな形で残すことができました。この一連の調査の核ともいえる

インタビュー・レポートだと思っています。

木村氏は、2018 年に CoSTEP14 期本科ライティング・編集班の取材合宿で訪れた平取町在住であり、2019 年 9 月 8 日に豊平川河川敷で開催されたアシﾘチェﾌﾟノミで偶然お会いしたこともありました。その時に、アイヌではない私が儀式に参加することの可否についてお尋ねしたときに、笑顔で「アイヌはウェルカムだよ」と言っていただいたことが心に残っています（成田他 2022b, 23）。また、2019 年 8 月 23 日に開催された、木村氏が講師の NPO 主催の講演会「強制移住と遺骨盗掘」にも参加していました。遺骨返還請求の当事者の方は他にもいらっしゃいますが、微かでも縁のある方にインタビューをお願いしようと思いました。悲しさや悔しさを抱えた木村氏の熱い想いを受け止めて、私に何ができるか考えていました。

15-3. 竹内渉氏インタビュー・レポート（成田・川本 2022c）

非アイヌですが 1970 年代の「アイヌ民族運動」を間近に見ており、後にアイヌ民族の団体である北海道アイヌ協会の元事務局長もつとめた竹内氏へのインタビュー調査の最後としました。「アイヌ遺骨問題」だけでなく、もう少し視野を広く持ち、学術界や社会に対するアイヌ民族の反応としての「アイヌ民族運動」をアイヌ解放同盟の結城庄司代表の活動を通して知りたいと考えました。また、竹内氏へのインタビューを通して、非アイヌとして、「アイヌ遺骨問題」への関わり方のヒントが得られればという思いもありました。

私は竹内氏が講師の NPO 主催の講座を、2020 年 11 月 7 日「アイヌ民族復権に向けた歴史を振り返る — 戦後アイヌ民族活動史」と 2021 年 7 月 3 日、8 月 7 日、9 月 4 日の連続講座「アイヌ民族復権に向けた歴史」を拝聴しました。「アイヌ民族運動」を時に熱く時に冷静に支え、独自の視点で社会の変化を視てきた方という印象でした。

16. 発掘されたアイヌ遺骨が辿った道（概略）

発掘・収集されたアイヌのご遺骨は、ガイドラインの手続きによる返還と、裁判の和解による引き渡しによりアイヌの方々へご遺骨をお返しされている。お返しできてない遺骨は慰霊施設に集約され、ほとんどのご遺骨がこの状態にある。

本章では、北海道大学に収集された遺骨が慰霊施設に集約されるまでの経緯とお返しできたご遺骨を可能な限り提示する。なお，2014 年度以降の返還と和解による引き渡しに関しては、新聞などで報道されたもののうち筆者がアクセスできたものに過ぎないことをご理解いただきたい。

16-1. 北海道大学が発掘・収集したアイヌ遺骨が慰霊施設に集約されるまで

北海道大学は 1930 年代の前半をピークとした大規模な発掘を幾度も行い、その後も収集を続け 1,000 体を超える遺骨を収集した。「個人の所有地である牧場とか、洪水により崩れた所とか、道路工事現場等から人骨が発見された時がきっかけとなり、発掘調査が行われるというケースが殆どである」（北海道大学 2013, 86）が、手続き上合法であっても土地所有者がアイヌであっても、全てのアイヌの方々の了承が得られたとは判断できないことは研究者も承知していた（北海道大学 2013, 33, 36, 86-87）。そのように収集されたアイヌ遺骨は、北海道帝国大学医学部解剖学法医学講堂や新たに設置された標本庫に保管され、後に解剖学第 1 講座や第 2 講座に移された。

アイヌ民族個人や北海道アイヌ協会からの要請もあり、北海道大学はアイヌ遺骨を安置するために 1984 年に「アイヌ納骨堂」を建設し、北海道大学内での集約が行われた。しかし 2002 年には約 300 体の遺骨がプラスチックの箱に詰め込まれ、ずさんな形で保管されていることが分かり、北海道大学も保管が適切ではなかった旨を認め（北海道大学 2013 83, 96, 108-109）、遺骨を木箱に移し替え、すべての頭蓋骨箱を白布で包んだ（北海道大学 2013, 111）。「アイヌ納骨堂」竣工後、毎年初夏のころに北海道アイヌ協会（当時北海道ウタリ協会）主催のイチャルパが開催されている。その費用として、北海道大学医学部を中心として募金が集められ、1988 年に北海道ウタリ協会（現北海道アイヌ協会）に供養祭基金が引き渡されている。

国は 2014 年から個人が特定できた遺骨等の返還手続きを、2018 年から出土地域への返還手続きを開始した。また、2016 年以降には裁判の和解による引き渡しも行われるようになった。2019 年の文部科学省の調査では 1,574 体と 346 箱の遺骨が全国の 12 大学に保管されており（文部科学省 2019）、返還等がなされた後の 2020 年には白老の慰霊施設に、9 大学から 1,323 体と 287 箱が集約された（文部科学省 2020）。そして、その後も返還と慰霊施設への集約が行われ、2022 年現在の慰霊施設には 1,665 体[3]の遺骨が集約され返還される日を待っている（国土交通省北海道局 2022）。

[3] 一見するとご遺骨が増えたように見えるが、「箱」という表記がなくなり、備考に「個体ごとに特定できなかった御遺骨」と記載された「体」という表記に統一されたように見える。

16-2. アイヌの方々にお返しできたご遺骨

表１　手続きによる返還

返還年	受け取り団体	遺骨数	保管大学	確認元文献等
1985 年	旭川アイヌ協会	5 体	北海道大学	北海道大学 2013※1
1985 年	釧路アイヌ協会	7 体	北海道大学	北海道大学 2013
1987 年	帯広アイヌ協会	19 体	北海道大学	北海道大学 2013
1995 年	三石アイヌ協会	1 体	北海道大学	北海道大学 2013
2001 年	門別アイヌ協会	3 体	北海道大学	北海道大学 2013
2018 年	ご遺族	1 体	北海道大学	毎日新聞 2018 年 7 月 21 日 [4]
2020 年	三石アイヌ協会	1 体	東京大学	北海道新聞 2020 年 10 月 5 日
2020 年	平取町, 平取町教育委員会, 平取アイヌ協会	34 体	北海道大学, 札幌医科大学, 東京大学, 新潟大学	北海道新聞 2020 年 11 月 2 日

表 2　訴訟の和解による引き渡し

提訴年	引渡年	原告	出土地域	遺骨数	被告	確認元文献等
2012 年	2016 年	小川隆吉氏、他 2 名	浦河町杵臼	16 体	北海道大学	日本経済新聞 2016 年 3 月 26 日 北大開示文書研究会
2014 年	2016 年	紋別アイヌ協会	紋別	4 体	北海道大学	北大開示文書研究会
2014 年	2017 年	浦幌アイヌ協会	浦幌	76 体 [5]	北海道大学	北大開示文書研究会
2017 年	2018 年	旭川アイヌ協議会	旭川市	2 体 [6]	北海道大学	産経新聞 2017 年 7 月 13 日 HTB セレクションズ 2018 年 8 月 13 日 [7]
2017 年	2019 年	コタンの会	新ひだか町	取り下げ	北海道大学, 新ひだか町	北大開示文書研究会
2018 年	2020 年	コタンの会	新ひだか町 浦河町東栄	取り下げ	札幌医科大学, 北海道	北大開示文書研究会
2018 年	2019 年	浦幌アイヌ協会	浦幌町	1 体	札幌医科大学, 北海道	北大開示文書研究会
2019 年	2020 年	浦幌アイヌ協会 [8]	浦幌町	6 体	東京大学	北大開示文書研究会

[4] 樺太アイヌの集落首長バフンケのご遺骨。写真が残るアイヌ民族のご遺骨として初めての返還。

[5] 提訴は 64 体

[6] *1 の返還漏れ

[7] 2018 年 6 月 25 日放送のイチオシ！で取り上げたときの映像。

[8] 団体名を変更し、ラポロアイヌネイションとなる。

表 3　文部科学省リスト外での返還もしくは引き渡し

返還年	受け取り団体等	遺骨数	保管大学	確認元文献等
2018 年	釧路市？	6 体	慶應義塾大学	産経新聞 2018 年 11 月 22 日

16-3. 遺骨受け入れ団体による慰霊などの実施状況

遺骨を受け入れた団体による再埋葬が行われる様子は報道されることが多いが、翌年以降の慰霊祭については、ほとんど報道されていない現状がある。ウェブサイトや報道などからわかる範囲でまとめた。下記以外にも、北海道大学アイヌ納骨堂やウポポイの慰霊施設では、カムイノミ・イチャルパが毎年行われている。

16-3-1. 旭川アイヌ協議会：公式ホームページなし

会長の故川村兼一氏は人権問題での講演なども行っていた。なお、旭川アイヌ協議会は公益社団法人北海道アイヌ協会の地区協会ではない。

・カムイノミ，イチャルパ等の実施状況（情報源）

2018 年　2 体を再埋葬（HTB セレクションズ 2018 年 8 月 13 日）

16-3-2. コタンの会：https://kotankai.jimdofree.com/

（１）北海道大学および全国の大学その他から返還されるアイヌ遺骨を、それぞれの地元に受け入れます。また受け入れたアイヌ遺骨の再埋葬地を管理します。

（２）再埋葬した遺骨に対して、アイヌプリ（アイヌの流儀）による慰霊を定期的に行ないます。アイヌの心を表現し真摯なる畏敬の念を表す慰霊、自然界をはじめとするあらゆる神様への祈りであるカムイノミと先祖供養の祈りであるイチャルパを行ないます。

（３）アイヌが古来もっている権利＝「先住権」について学び合いの場をもうけます。とりわけ日高地方各地でコタンを復活／再生させ、先住権の回復に努めます。

・カムイノミ，イチャルパ等の実施状況[9]（個人返還の慰霊を含む　浦河町杵臼）

2016 年　12 箱を再埋葬（ホームページより）

2017 年　4 体を再埋葬（ホームページより）

2019 年　4 体を再埋葬（ホームページより）

16-3-3. ラポロアイヌネイション（旧浦幌アイヌ協会）：公式ホームページなし

遺骨の返還と慰霊だけでなく、河川での鮭捕獲など先住民族としての権利も訴えている団体。

・カムイノミ，イチャルパ等の実施状況（情報源）

[9] コタンの会公式ホームページより。ただし、2020 年以降の更新は行われていない。

2020 年　102 体を再埋葬（朝日新聞 2020 年 8 月 23 日）
2021 年　103 体に対してカムイノミ，イチャルパ（十勝毎日新聞 2021 年 8 月 22 日）

16-3-4. 平取町、平取アイヌ協会

自治体とアイヌ協会が主催。祭司は平取町アイヌ協会が担う。平取町公式ホームページには掲載なし。平取アイヌ協会はホームページなし。

・シンヌラッパの実施状況（情報源）
2020 年　34 体を納骨堂へ（日高報知新聞 2020 年 11 月 2 日）

結果と考察

「アイヌ遺骨問題」は、全ての遺骨をアイヌの方々に返還し、正式に国や大学などが謝罪したとしても解決しきれない諸問題を含めた事象であると思えました。過去の研究が残した「負の側面」は学術界に留まらず、現代を生きるアイヌと私たち非アイヌにも影を落としています。

私は問題提起だけでなく、これからもアイヌを取り巻く諸問題を注視し、できることがあれば行動に移したいと思っています。ですが、現段階での具体的な方策を私は持ち合わせていません。しかし、このような「こじれた関係」に学術界が「正解」を出そうとするのではなく、同様に社会の側からも学術界に「正解」を求めるのではなく、一緒に心を寄せて考え悩むことが必要なのではないかと思っています。現代社会に生きる個々人が「アイヌ遺骨問題」に包括された様々な諸問題を知ることにより、そのふるまいが良き方向に変化することが求められているのだと感じています。

参考文献

筆者による報告書

成田真由美・川本思心 2020: 「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー」『CoSTEP 研修科年次報告書』4(1) http://hdl.handle.net/2115/78059 （2022 年 1 月 23 日閲覧）.

成田真由美・川本思心 2021: 「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー」『CoSTEP 研修科年次報告書』5(2). http://hdl.handle.net/2115/82656 （2022 年 1 月 23 日閲覧）.

成田真由美・川本思心 2022a: 「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー(1):インタビューイー常本照樹氏」『CoSTEP Report』5 (1). http://hdl.handle.net/2115/84612 （2022 年 3 月 30 日閲覧）.

成田真由美・川本思心 2022b: 「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー(2):インタビューイー木村二三夫氏」『CoSTEP Report』 5 (2). http://hdl.handle.net/2115/84785 （2022 年 4 月 12 日閲覧）.

成田真由美・川本思心 2022c: 「アイヌ遺骨問題に関する関係者インタビュー(3):インタビューイー竹内渉氏」『CoSTEP Report』 5 (3). http://hdl.handle.net/2115/84822 （2022 年 4 月 19 日閲覧）.

政府機関・大学　公開文書等

国土交通省 北海道局 2022: 『慰霊施設において管理するアイヌ遺骨等の情報』 https://www.mlit.go.jp/hkb/content/001476362.pdf（2022 年 4 月 14 日閲覧）.

北海道大学 2013: 『北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書』http://hdl.handle.net/2115/82908（2022 年

4 月 19 日閲覧）.

北海道 150 年事業実行委員会 2019:『北海道 150 年記念事業誌」
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sum/sho/hkd150kirokushi.html（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

文部科学省 2019:「大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/04/25/1376459_4_1.pdf （2022 年 4 月 19 日閲覧）.

文部科学省 2020:『慰霊施設に集約された大学が保管するアイヌの人々の御遺骨の数について』
https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/ainu/ikotsusuu20201013.pdf （2022 年 4 月 19 日閲覧）.

日本国 2019:「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」(平成三十一年法律第十六号) https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=431AC0000000016 （2022 年 4 月 19 日閲覧）.

新聞・一般図書　等

朝日新聞 2020.8.23:『北海道）東大から返還、アイヌ遺骨を再埋葬　浦幌の団体』
https://www.asahi.com/articles/ASN8Q6VJPN8QIIPE001.html（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

北海道新聞 2022.7.30:『アイヌ民族の遺骨を慰霊 北大で「イチャルパ」』（電子版公開終了）.

北海道新聞 2020.10.5:『アイヌ民族の遺骨 1 体、東大が三石アイヌ協会に返還　政府指針に基づき初』
https://www.hokkaido-np.co.jp/movies/detail/6197458573001（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

北海道新聞 2020.11.2:『アイヌ遺骨「返還が当然」 先祖の歴史研究、平取の団体・木村さん 「大学や国は謝罪と経緯解明を」』（電子版公開終了）.

北海道テレビ放送局 2018.8.13:『【HTB セレクションズ】遺骨が旭川の故郷へ　30 年にわたるアイヌ古老の訴え』
https://www.youtube.com/watch?v=ZMQxoqT0tPE&t=21s（2022 年 4 月 25 日閲覧）.

日高報知新聞社 2020.11.2:『遺骨返還うけ先祖供養【平取】』（電子版公開終了）.

毎日新聞 2018.7.21:『北大　アイヌ首長遺骨を返還へ　写真残存者で初』
https://mainichi.jp/articles/20180721/k00/00e/040/318000c（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

日本経済新聞 2016.3.26:『アイヌ民族の遺骨、北大が返還　札幌地裁で和解』
https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG25HAV_W6A320C1000000/（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

産経新聞 2017.7.13:『アイヌ遺骨返還求め提訴　旭川「信教の自由侵害」』
https://www.sankei.com/photo/daily/news/170713/dly1707130018-n1.html（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

産経新聞 2018.11.22:『アイヌ遺骨 20 年ぶり返還 慶応大、釧路市に 6 体』（電子版公開終了）.

竹内渉 2020:『戦後アイヌ民族活動史』 解放出版社.

十勝毎日新聞 2021.8.22:『浦幌　ラポロアイヌネイションが「カムイノミ・イチャルパ」』
https://kachimai.jp/article/index.php?no=540442&display=pc（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

ウェブサイト

民族共生象徴空間（ウポポイ） https://ainu-upopoy.jp/（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

コタンの会 https://kotankai.jimdofree.com/（2022 年 4 月 19 日閲覧）.

北大開示文書研究会 アイヌ遺骨返還請求訴訟 http://www.kaijiken.sakura.ne.jp/trial/trial.html（2022 年 4 月 19 日閲覧）.